

第1回 草津市草津川廃川敷地土地活用検討委員会 議事概要

日 時 平成22年5月10日(月)
午後5時～午後7時25分
場 所 草津市役所8階大会議室

1. 開 会

市長挨拶

2. 委員紹介

出席委員数 22人中19人

3. 委員会設置要綱及び公開要領の説明

4. 委員長・副委員長の選出

委員長：塚口博司委員、副委員長：深川良一委員

5. 審 議

(1) 草津川廃川敷地の概要説明について

- 1) 事務局より概要説明
- 2) 主な発言

A委員：H14.5策定の草津川廃川敷地整備基本計画を基本として本委員会を進めていくという理解でよいか。

事務局：基本計画は大きな方向性を示したものであり、本委員会では基本計画を基本としながら整備実施に向けて具体的に検討していきます。

委員長：基本計画を基本とするが、基本計画策定から8年経過していることなどを踏まえ、現状の社会情勢にあった計画になるよう本委員会にて意思決定をしていく。

B委員：県の基本方針の中で、土地の譲渡は原則として有償とするところがあるが、公共用地の場合も有償なのか。

事務局：市が整備する範囲については、市が県より土地を購入します。

(2) 草津川廃川敷地の土地活用に関する市民アンケート調査について

- 1) 事務局より市民アンケート調査の内容説明
- 2) 主な発言

C委員：問13について、緊急政治課題（少子高齢化、雇用問題、財政難など）に対応した項目が欠如しているように思われる。高齢者のための施設や保育所などの整備を項目として追加してほしい。

委員長：「少子高齢化に対する施設を導入する」というような表現で項目を追加してはどうか。

事務局：その方向で検討します。

D委員：アンケートの調査対象の抽出方法は無作為抽出ではなく、草津川と関係が深い地域・地区（計画対象地沿川など）への抽出割合を多くするなど変化をもたせたほうがいいのではないか。

委員長：市民に幅広く意見を伺うことを目的としており、年齢・男女・地区を均等に割り振った上での無作為抽出方法は、妥当な方法と思われる。

D委員：居住年数に偏りが出るのはないか。

委員長：居住年数に関する問いを設けられているので、事務局は居住年数毎の集計・分析もしてください。

事務局：居住年数毎での集計・分析を行いません。

D委員：アンケートの目標回収率40%は低すぎないか。

事務局：1200票は草津市民の1%（100人に1人）にあたり民意の回答数としては妥当な数字と捉えています。また、回収率40%は草津市のこれまでのアンケートの結果を踏まえており妥当と考えます。

委員長：回答される市民は本計画に関心の高い方々が多いものと想定されるため、1200票あれば本計画に対する民意は十分に確認できると思います。

E委員：問8、9では「現在」の旧草津川に対する利用状況を問うているが、「今後」の利用方法についても同様の設問があったほうがいいのではないか。問13で「今後」の利用状況の設問があるが問8、9とは問い方が異なるので結果がうまく整理できないのではないかと思われる。

事務局：問8、9の内容は今後の利用方法にも反映できるものと考えていますのであえて同様の設問をしていません。問13はもう少し広い視野での利用方法を問うことを目的としています。

B委員：問13の⑫の周辺の市民が通過するための生活道路とはどういう道路をイメージしているのか。

事務局：4車線道路などの主要幹線道路とまではいかない道路をイメージしています。わかりにくい表現となっていますので、表現方法を再検討します。

A委員：問13について「天井川」としての歴史的空間の保全という意味合いの項目がないので「天井川」という言葉を追加してもらえないか。

事務局：④の項目に「天井川」という表現を加えた内容に修正します。

F委員：問14に示されている場所がおおまかでわかりにくい。H14.5の整備基本計画で設定されているゾーンを示してはどうか。

事務局：H14.5整備計画の内容にあまりしぼられないようにしたいという思いであえて大まかな場所設定としていますが、少し検討したいと思います。

6. その他

次回（第2回）委員会日程：6月29日（火）午前中を候補で調整

7. 閉会

閉会の挨拶（総合政策部副部長）